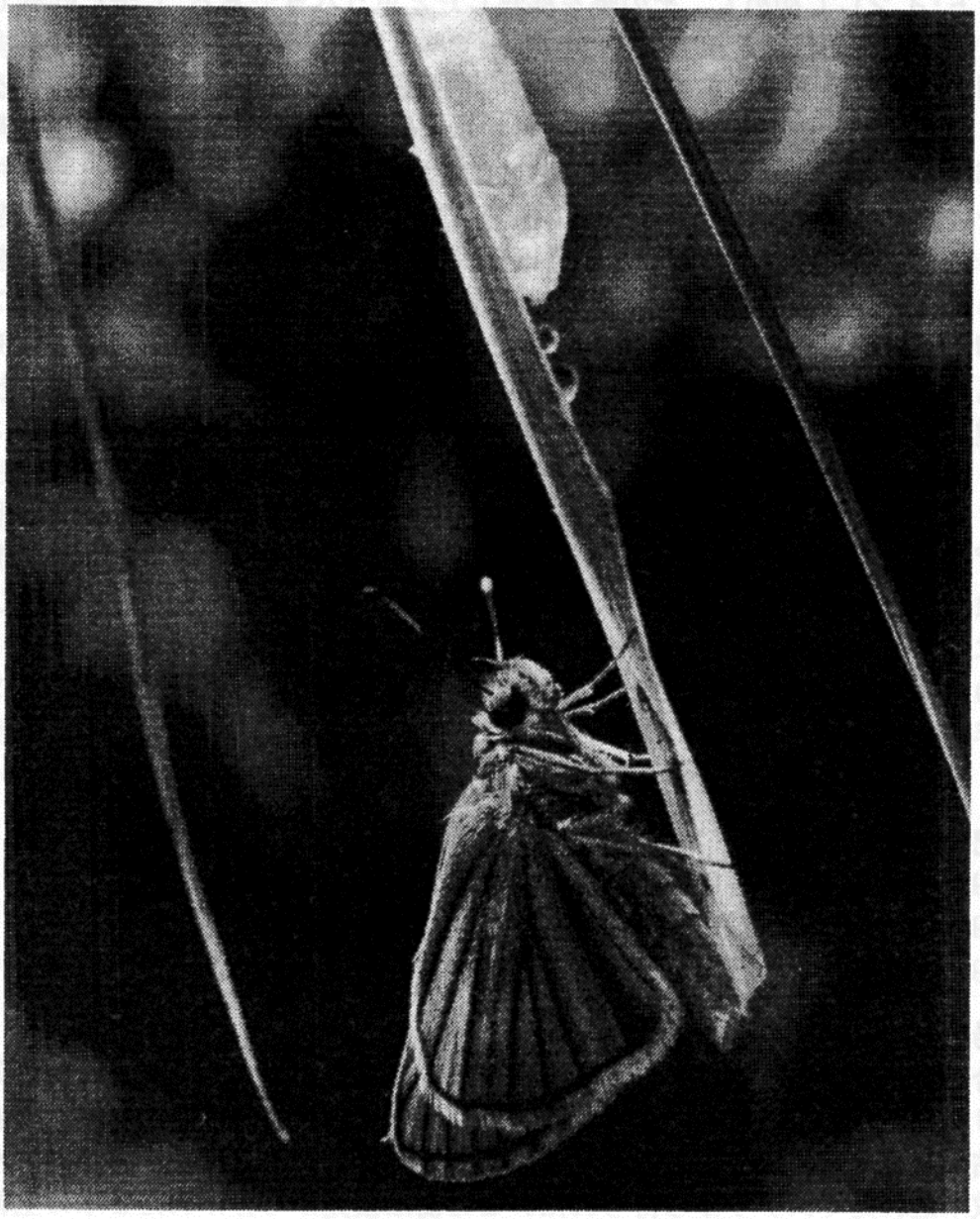
翔

NO.75

'89 FEBRUARY



Butterfly
Beetle
Insect

百万石蝶談会

ムモンアカシジミの採蛹

野中　勝

先ず、翔73号の指田春喜氏の名言を引用させて頂く。「野外で飛んでいる姿を見たことが無い種類を飼育して、箱一杯に並べて、成虫を採集することを放棄してしまうようなことを、私は断固許せない。虫屋なら、いや蝶屋なら、成虫をネット・インして初めて、その蝶を採集したと思うべきである。」全く同感である。蝶の採集が自然と接する１つの手段である以上、ネット・インする最後の瞬間まで自然のままにすごしてきた成虫を採集することを最高の目的とするのは、理にかなったことといえよう。しかし、僕の心の中には以下のような考えも存在する。「その種の本当の美しさは飼育羽化した、リンプンの１枚も落ちていない標本を見て初めて分かるのであり、野外でボロを得ただけでその種を採集したなどと思うべきでない。例えば飼育完品のアイノと野外品のアイノを比べると、ほとんど別種と言える程美しさが違う。」この考えこそが、僕をゼフの採卵・飼育へとかりたてる原動力であるが、飼育・野外の差の最も顕著な例が、ムモンアカシジミであろう。御存知の如く、羽化したてのムモンアカの肢には微毛がまとわりついており、細心の注意を払って、この毛が落ちない様に展翅された飼育羽化標本が真のムモンアカシジミなら、野外産の毛の落ちたものはさしずめムモウアカシジミだろう。従って本種の飼育を手がけたい人は多いはずだが、これがなかなか難しく、本県でも金子氏が卵からの、松井氏と僕が幼虫からの飼育に成功しているが、半肉食の為か良好な成育をせず、羽化したのはいずれも野外産より一回り小さい個体であった。ならば蛹をという事になるのであるが、蛹採集をして羽化不全に泣いた事は翔53号に報告した。そこで今年はリターン・マッチである。以下はその記録であるが、例によって中西重雄、松井正人の両氏には多々御援助頂いたので、ここに感謝の意を表したい。

採蛹記録

1988年７月24日	石川郡白峰村大杉谷	３蛹	中西重雄・野中　勝
1988年７月31日	石川郡白峰村百合谷	２蛹	野中　勝
1988年７月31日	石川郡白峰村大杉谷	５蛹	松井正人・野中　勝

蛹化場所

百合谷の２蛹、大杉谷のもののうち５蛹は各々１本のミズナラの根元の枯葉上より発見された。発見場所はいずれも根際のアリの往来の盛んな所で、表面から枯葉を２～３枚めくると蛹が出現した。大杉谷の他の３蛹は、上記発生木から数米離れたミズナラから得られた。この樹は根元から分かれた２本の主幹が相接して上方へ伸びており、アリがその接する部分に土を塗って通路を作っていた。蛹は、その通路内にあり、土を退けるとことによって初めて姿を表した。いずれの場合も蛹は尾部でのみ、枯葉、樹幹に付着しており、胸部の

帯糸は明らかでなかった。

蛹の管理、発生時期

1985年の羽化不全の原因と考えられたものの１つに水分不足があった。今年採蛹して、蛹が湿気の多い所にあるのを再確認し、水をたっぷり含ませたティッシュペーパーの上に蛹を並べて羽化を待った。その結果、８月１日～８月８日の間に10頭とも無事に羽化した。1985年には７月29日に既に羽化しており、やはり今年は発生が遅れぎみであった様である。

以上、ムモンアカの飼育完品を蛹採集により得られるめどがついた。ただし、蛹の時期にミズナラの根元にしゃがみ込んでいると、スズメバチが何故かブンブンとまとわりついてくる。刺されない様、ご注意を ！

1988年７月31日　白峰村大杉谷にて

小幡英典氏、昭和６３年度高碕賞写真賞で１等に選ばれる

高碕賞は、１年の間に『インセクタリウム』に投稿された作品の中から選ばれ、飼育観察賞、奨励賞、写真賞の３部門がある。写真賞はたえず激戦で、今回の『クロオオアリの巣造り』も委員の熱っぽい議論の結果、１等に選ばれたものである。

こんな氏の作品を、あなたはいつも目にしている事に気付いているだろうか。そう、『 翔 』の表紙の羽化シリーズが氏の作品。印刷費をケチっているため画質はかなり落ち、イメージが相当違っているのを氏の名誉の為につけ加えておくが、これからも氏の作品が『 翔 』の表紙を飾ってくれるのは、大変喜ばしいことである。

ギフチョウの初見記録とサクラの開花宣言

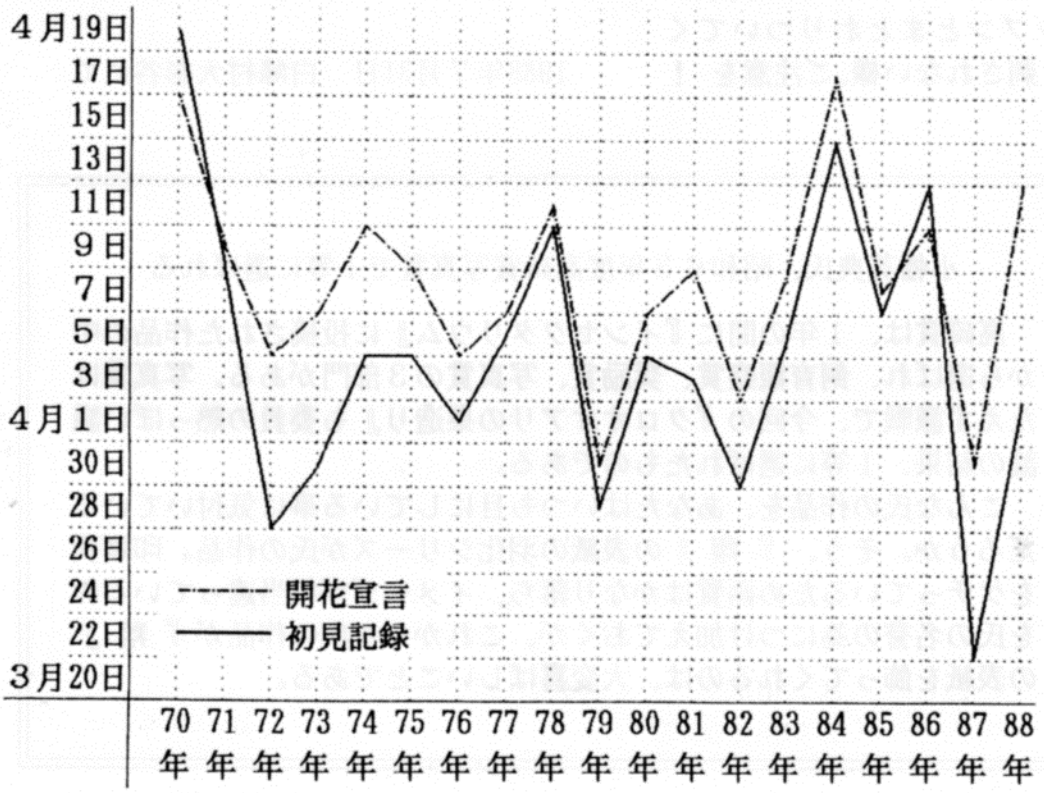
松 井 正 人

『春一番が掃除したてのサッシの窓に、ほこりの渦を踊らせてます』とはキャンデーズの『微笑みがえし』の一節。このほこりをまきたてる強い南風が吹きまくると、気温も上昇し、だんだんと春めていくる。

この頃になると、もうどうしようもなくソワソワしだし、まだ雪の残る雑木林に踏み込んだりしてしまう。『今年は暖冬』とでも思い込もうものならたいへんで、暇さえあれば雑木林に通う事となる。これこそがギフチョウの魔力。『今日はここまでに…』などと悠長なことは言ってられず、『今日中になんとか…』と実に思い詰めた気持になるのもこの頃の日曜日である。この時期は楽しいものだが、長引けば長引く程にギフチョウ以外の弊害が大きくなる。

1988年は暖冬と思い込み、３月中旬からギフチョウを追い求めたものの、初見は４月２日。この間、半月以上も初見のことしか頭になく、暇を作っては通いつづけた。その結果は、カミさんからは白い目で見られ、また協力を惜しまなかった蝶友からも、カラブリを繰り返す毎に疑いの眼差しを向けられることになった。

蝶類図鑑によれば、『ギフチョウの発生は、その地方のソメイヨシノの開花期とほぼ一致する』とある。では金沢地方気象台の出す、サクラの開花宣言



(標準木《ソメイヨシノ》が数輪の花を付けた日)を基に調査を進めれば、初見記録に費やす日数を最小限にとどめることができないだろうか。

グラフは過去の記録を比較してみたもので、初見と開花の波はほぼ一致することがわかる。波のズレ(上下方向)が一定でないのは、開花が毎日観察されるのに対し、初見は限られた日にしか観察できない(曜日、晴雨の制約)ことによるものと思われる。そこでズレはグラフ以上に大きくなることが予想されるが、87、88年の記録は蝶談会を挙げて初見記録にいどんだもので、これ以上のズレはまず無いと思われる。以上のことからギフチョウの初見は、サクラの開花宣言より10日程早いことが予想され、これでは初見調査の基にならないこともわかってしまった。

しかし開花宣言の前には開花予想が出されている。前後３日程の誤差が考えられるそうだが、毎年３月20日から出されているので、何とか間にあう。これで余程の暖冬でもない限り、３月20日に予想された開花日より13日さかのぼった日から調査を始めれば良いことになる。色気を入れて15日程前から始めれば、いいだろう。さあ、春にはどんな答えが出るであろうか。何だか今からワクワクしそうである。

参考文献

松井正人(1988) ギフチョウの初見記録 翔(69):2
吉岡　泉(1989) ギフチョウの早い記録 翔(75):7

アサギマダラ・マーキング一覧（１９８８）

1988年は９月18日のマーキングよりマークの方法を変えました。これまではマークの日、場所、氏名、電話番号を書き込んでいましたが、これではマークに手間取り、多数のマーキングが不可能なこと、また個体識別ができないこと等から、『石川　ま００１』といった番号制にしました。

マーク日	マーク地	マーク数	備考
８月21日	白峰村白山釈迦岳	3♂	
８月28日	〃	54♂　3♀	既捕０
９月４日	輪島市高洲山	2♂　2♀	〃 ０
８日	押水町宝達山	6♀	〃 ０（捕率０％）
15日	〃	54♂　40♀	〃 ２（〃 ５％）
18日	〃	54♂　28♀	〃 ４（〃 14％）
21日	〃	11♂　8♀	〃 ６（〃 75％）
27日	金沢市広坂	1♂	
10月22日	高知県足摺岬	3♂	『高知　ま』
計		182♂　87♀	

やっぱり冬は採卵に限る

野中　勝

久しぶりに採卵に熱中している。二冬をゼフのいないアメリカ、セント・ルイスで過ごして、採卵に対する欲求不満がたまっていたことが第１の理由。小生の不在中は不作を口実にほとんど誰も採卵しなかったと言うし、近頃ではラン違いの採蘭にうつつをぬかす輩までが出現するに及んでは、生れついてのへそまがりから、それならオレだけでも採ってやると思ったのが第２の理由。やってみればやはり採卵は面白く、熱中してしまった次第。以下は熱き採卵の記録である。

1988年10月１日。金沢市周辺でなかなか興味深い分布をしていそうな、ヤコンオサ、オオオサの勢力範囲を調べる目的で、金沢市の二俣、角間、砂子坂に設置したトラップを見回った。ところがトラップにはマヤサンとクロナガしか入っておらず、ヤコン、オオの分布については何の情報も得られなかった。そのまま家へ帰る気にもなれず、以前よりほぼ毎年メスアカ卵の見られていた富山県福光町の医王権現近くの小さなサクラの木を見に行った。すると何と、そのサクラの木《卵があっても枝を切らずに削り取って木にダメージを与えない様にと大事にしてきたその木》が根元からバッサリと切られていたのである。頭にきた僕は、意地でも他の木から採卵してやろうと決心し、この付近には条件の良い木は多くないことを知っていたために、当然苦戦になることを覚悟した。ところが、近くの日当たりの良い所に生えた、まずそうなサクラを見るとすぐに卵。次にこれまたまずそうな木にも卵。遂には道脇の草の中に生えている１ｍ程の、卵など絶対に付いているはずも無い木からも採卵されるに及んで、今年はメスアカの当たり年に違いないと思い当たる。以後メスアカ卵は、ほとんど全ての調べたサクラから発見され、わずか２時間ばかりの採卵で下記の結果となった。メスアカが多いということは、多分他のゼフも。そうだやっぱり冬は採卵に限る。

メスアカミドリシジミ　　53卵

1988年10月２日　金沢市順尾山。ホソヒメクロオサの分布調査の為のトラップを中西氏と設置。以後、ブナに手を出してフジに振られ、ミズナラにも甘い話しはなく、中西氏が何処からか切ってきたサクラの小枝を刻みながら昼食とする。この小枝には25卵も付いており、やはりメスアカが本命と、昼食後はもっぱらサクラ捜し。この山は植林が進んでいて、環境はあまり良くないものの、崖の上に１～２ｍの枝を５～６本広げているメスアカのポイントを絵に書いた様なサクラを発見。取り付いてみると何処にも卵がベタベタと付いているので、枝を落して道路に戻り、腰を据えてじっくり刻む。この１本の木にはおそらく100卵以上付いていたと思う。メスアカはやはり豊作。

メスアカミドリシジミ　178卵　　ダイセンシジミ　1卵
ジョウザンミドリシジミ　14卵　　アイノミドリシジミ　3卵
（成果は中西氏との合計）

1988年10月10日　メスアカは満腹したし、やはりアイノベタベタのミズナラを捜すのが採卵の本筋と、横谷と刀利ダムの間の峠から医王山方面に延びる林道、つまり石川県金沢市と富山県福光町の境界と思われるところにアタック。３本のミズナラを調べた結果は以下の通り。

ジョウザンミドリシジミ　20卵　　ダイセンシジミ　7卵
アイノミドリシジミ　17卵

アイノはとてもベタベタとは言えないものの、僕にとってはまあまあの成績。また、アイノのうち半分以上は１本のミズナラの樹の内部、幹から直接生えた芽から得られたもので、案外こんな所もアイノのポイントかと考えた。この時期の卵はまだ純白であり、特にアイノの２連発とくれば、かなり遠くからでも白い塊として認識できる為、これまで目が行かなかった所から発見できたが、今後は少し注意してみる必要がありそうだ。ミズナラに登って疲れたので、楽なメスアカを採卵したくなり、以前採幼した事のあるナガトロ峡（富山県福光町）へ向かう。夕暮前の短時間にサクラを調べたが、やはりメスアカは多い様であった。

メスアカミドリシジミ　23卵

1988年10月15日　午後より出撃。目標はもちろんアイノベタベタミズナラ。刀利ダム（富山県福光町）のダム湖沿いで捜す。ダム湖の東岸沿いに南下して行くと、左側から小沢が入っている所で、空間に枝を広げたアイノベタベタ風ミズナラを発見。ではアイノを 100卵程と、道路から約５ｍ上のその樹の根元を目指して崖に取り付くと、イボタが目に入ってきた。今日の目標はアイノだし邪魔な奴めと思いつつも、一応調べるとウラゴマダラはちゃんと産卵していた。止む無く採卵し、さてアイノをと一歩進むと今度はクロウメモドキ。イヤイヤ枝を見ればミヤマカラスがベタベタ。刻む時間がもったい無いので、一枝持ち帰る事にして、やっとミズナラにたどり着き、根元のひこ生えに目をやると、なんとオオミドリの卵。今日はついている、これならアイノ 100卵間違い無しと、そのミズナラに登ったものの、芽は純白には見えず、ジョウザン、ダイセンが少し付いているだけ。小枝を捜すと、エゾ、ミズイロに加えてウスイロまでが見つかり、標高の低さ（400m弱）から意外な気がした。ウスイロの卵塊でもないかと幹を眺めていたら、再び幹から直接生えた芽よりアイノ２卵を発見。その後頂芽からもアイノ２卵追加したものの、またまたアイノベタベタは夢となってしまった。木の上から近くにサクラの小木を見つけた為、こんな所にゃいないだろうと思いつつも調べると、卵あり。結局この１本のミズナラと、

その周辺の直径10m位の範囲内の小木からは、10種ものシジミの卵が採れてしまった。これは１人１日の採卵種数としてはギネスものだろう。（但し、Favoniusは卵を同定した訳ではなく、産卵位置から種名を判断しただけなので、オオミドリがエゾミドリにでも化ければ１種減る。）

ミヤマカラスシジミ	103卵	ウラゴマダラシジミ	26卵
メスアカミドリシジミ	３卵	ダイセンシジミ	４卵
ジョウザンミドリシジミ	21卵	アイノミドリシジミ	４卵
ウスイロオナガシジミ	１卵	オオミドリシジミ	１卵
ミズイロオナガシジミ	４卵	エゾミドリシジミ	９卵

メスアカがややもの足りなかったので、再びナガトロ峡で先日の続きをやる。

メスアカミドリシジミ　31卵

かくして10月半ばにして、数百卵のシジミの卵を採集してしまった。この数はアイノベタベタのミズナラの樹が発見されるまで増えつづけるだろう。

きっかけがどうであろうと、引き寄せたミズナラの枝先からゼフの卵を見つけてしまった時が採卵病の始まり。卵がキンピカの標本と等価に思えて、ミズナラの樹上で寒風に吹かれたり、トネリコの根元の地面に顔をこすり付けたりしても何とも思わなくなったら病はかなり進行しており、アイノの真白い卵は成虫より美しいなどと思いだしたらもう不治の病である。ああ

ギフチョウの早い記録

吉岡　泉

翔69号に興味深い「ギフチョウの初見記録」がまとめられているが、筆者は先の記録より早いデータを持っているので報告する。

ギフチョウ

1981年４月３日	金沢市窪	５♂♂	吉岡　泉
1982年３月29日	金沢市窪	９♂♂	吉岡　泉
1982年３月29日	金沢市三小牛	３♂♂	吉岡　泉

短　報　16

キベリタテハ

1988年10月２日　金沢市順尾山　1ex目撃　野中 勝・中西重雄

アサギマダラ

1988年９月18日　小松市鈴ケ岳　2♂1♀採集10数頭目撃　山崎慶寿

蝶談会年間ベスト１０決定秘話

中田泰介

12月２日ＰＭ７：５５　事務所を見上げ路上にたたずむ。燈火が暗闇に浸み入り、もう誰かが来ていることを告げていた。案内の葉書によると、今日は何やらベスト１０が決まるらしい。新参者の私には何がエラいんだか判らなかったが、せっかく入会した（ただしまだ会費は払っていない）のだからと思い、家庭教師をずらして（サボって）参入したのだ。

一息入れてから突入！ と思い、ポケットを探すが禁煙中なのを思いだした。やはりタバコは身体に良くない。学校では人の病気を直すことを学びながら、一方これでは困ることだし。（でも実は、経済的な理由が主だったりする。）

秒針が０をかけぬけた。私はよく時計を合わせるので今が丁度ぴったり８時だ。突入！　『こんばんわ～っ！』

答えたのはお嬢さん（ちと言い過ぎですか？）が１人。お茶とお菓子を用意していた。これが今晩のムシたちのエサである。ふと思った、虫屋たちは各々追いかけている虫に似てきてしまうのではないかと。オサムシに似ている…、やはりやめておこう。この件については次期に筆をたくそう。私が何に似るかもわからないのだから…（何かに似せてみたい人、誘ってやって下さい）

今日の内容を聞いたり（ニコニコされただけで結局わからず）、『ＥＤは中がせまいね』とか、『子供が勉強しない』とかしゃべっていると、エサ入りのトラップにすい寄せられるかのように、オサム…　いやＮ氏到着。男手が増えたところで配置変え。これでトラップは完成だ。

カナダから手ぶらで帰った私は、Ｎ氏から『虫屋としては失格だよ』と叱責を受ける。そういえば、道端の花には目がいっても（植物研究部所属です）虫へは目が行かず、またバンフの牧場ではフンの山にいたクソムシをつっついたけど、捕まえなかったのは失態だったろう。ピンクマウンテンで大暴れしたＮ氏とは雲泥の差だ。『次は捕まえてきますよ』と確約した。（その言う次とは1989年、つまり平成元年の夏だったりする…あくまで予定だが）

次々にトラップにかかり、集まってワイワイ。箱を持ってきて見せまくる人(Ｓ氏)、本をたくさん持ってきてオレが書いたんだぜいと配る人(Ｍ氏)、などなど。やがていつの間にか話しが進みだして、何やら候補があがりだした。”ラン屋の横行！”、”スライド班活躍！”、　…でも変だぞ、テーマとちとズレてないか？ ”Ｎ氏帰国”、”ピンクマウンテンでシバきまくる”、”オサムシ班躍進！”　う～んＮ氏は人気者だな。独り舞台だ。まともなのも幾つか出だした。”○○第○番食草”、”△△初見××どこどこ”、”□□、×頭/時、三角紙にいれてる暇なんかねェ”、うんこれはすごい、さすがだ。

でも結局我々では決まらず、会長にTel。すぐやって来い！ てんで、会長登場。しかしやっぱり決まらず、Top なしになり箱はお預け。でも個人的にはホ

ンモノの植物学者を後楯にもつ”ラン屋の横行”が好きだったり…。とにかく来年の箱を目指してムシ達はトラップをすごすご出ていくのでした。星降る中を…。

文中でそれらしく登場してしまった人、ごめんなさい。また何のことか判らない人は、今度来てこのことを知っている人に聞いてみて下さい。

１９８８年蝶談会１０大ニュース

1．該　当　な　し
2．ギフチョウ第４食草の確認（ウスバサイシン）　…　７１
3．オサムシグループの活躍　……（各号）
4．ゴマシジミの新産地発見（赤兎山）　……　７４
5．蘭　屋　横　行　……（各号）
6．アイノミドリシジミの最多採集（１２２♂／ｈ）　…　７１
6．キベリタテハ豊作（白山釈迦林道）　……　７３
6．スライドグループの活躍　……（６９）
9．ピンクマウンテン、ウスバキチョウ採集行（野中氏）（７１）
9．ウスバシロチョウの新産地発見（奥能登）　……　７１
9．奥能登でコブヤハズカミキリを採集（宝立山）　…（７４）
9．初見記録（ジャコウアゲハ、ツマキチョウ５月２日）

各行末尾の数字は報告された『翔』の号数を示す。（　）は『会員の動き・しゃばの動き』を参照。

１９８８年収支報告

（単位：円）

収入		支出	
項目	金額	項目	金額
1988年会費(未納6人)	78,000	会誌作成費	84,300
会誌売上費	23,000	例会費	12,000
郵送費	6,500	郵送費	17,620
寄付（嵯峨井淳郎氏）	8,000	助成費	12,200
雑入（86、87年会費）	3,000	消耗品費	0
繰越金	28,265	繰越金	20,645
計	146,765	計	146,765

※会計年度は１月１日から12月31日。年会費は２，０００円

会員の動き・しゃばの動き

✚11月19日長野県奈川村で木に登っていた老人が、クマと間違われ、撃たれて死亡。他人事ではありません。

✚11月20日採卵会 PART Ⅱ。参加はお馴染の野中氏、松井氏と採卵初体験の指田氏。猪谷でヒサマツをガッポと採る。(ガッポガッポじゃ無いことに注意)

✚11月20日勝海氏、キリシマを狙って滋賀県は霊仙へ。時間のつごうから、50卵程で帰ってきた。

✚11月23日勝海氏、医王山、獅子吼高原と駆け回り、夕霧峠でフジ１卵。今年はダイセンが多いとか。

✚11月23日松田氏、恒例の猪谷採卵行。４時間程で130卵。卵は平年並だが芽が少なく、芽さえ見つかれば、後はゴキゲンだったらしい。

✚11月23日中西、井村、野中の３氏、１番フェリーで佐渡へ。寸時を惜しんで掘りまくり、または朽木を崩し、最終フェリーで帰ってきた。金沢からの往復なんと30時間。これも北陸道がつながって成せる業ですなあ。

✚11月26日井沢氏、来沢。何やら怪しげな土産話がたくさんあったらしいが、ここまで流れて来なかった。

✚11月26日白峰村は積雪１ｍ。25日より寒波の襲来を受け、金沢でも山沿いでは20～40cm積もった。これで奥地の採卵計画もパー。さっそくスキーの準備に取りかからなくっちゃ。

✚小幡氏、来春発行の写真集『石川のブナ』の写真集めに師走の町をかけ回る。ブナに関連した虫もたくさん載るらしいよ。

✚12月４日野中氏、森本でオサ掘り。最近はしばしば子連れで出没するらしく、この日も２人で崩しあい。狙いのヤコンはイッコも採れず、マヤサン、アキタの常連ばかり。

✚野中氏、東京へ出たついでに木曜社へ立ち寄る。話しには聞いていたものの、いたる所に標本が置かれ(散乱し)、ほんとに足の踏み場もなかったらしい。

✚12月24日指田氏、２週間の予定でマレーシアはキャメロンハイランドへ。往復航空券が何と12万。

✚12月25日野中氏、子連れでオサ掘り。片山津辺りで、松の倒木からアキタ、クロナガ等多数を採集。

✚12月26日吉村氏、家族そろってニュージランドへ出発。フィヨルド、ツチボタル、Mt.クックの遊覧飛行と、お楽しみが盛り沢山とか。３日に帰って来るらしい。

✚12月30日深夜、中西、井村の強行軍は対馬へ向かった。井村デリカに家財道具一式を積み込んで、５泊６日は車中泊の予定。第１目標はラン、次いでクワガタ、そいでもってオサムシ、時間があればキリシマの卵も狙うらしい。カミキリは話題にもあがらなかった。

✚１月１日おめでとう。今年も雪無し正月。『ひょっとすると今年は暖冬かも　？』とは松井氏の弁。これ何のことか分かる　！！

✚吉岡氏、今春は岡山、広島あたりのギフを計画中。ひょっとすると２月に東南アジアへ行くかも。

✪1月6日中西、井村の対馬組、ようやく帰沢。4日の予定がフェリーに乗れず、キャンセル待ちで2日ものびてしまった。それでもみごとにカンランを手中に納め、意気揚々と帰ってきた。

✪1月6日指田氏、マレーより帰国。毎日シコタマ酒を飲んで、2週間の滞在費がなんと4万円。安い。同じ酒でも片町だと1晩で無くなっちゃう。面白いものをたくさん採ってきたから、早く見に来て欲しいらしい。

✪吉村貴己氏、『福娘』の東洋醸造に入社が決定。何を隠そう東洋醸造には、嵯峨井氏の弟、均氏も努めている。夜の中せまいもんだねえ。

✪指田氏、日本に3頭しかない標本を2頭も持っていると騒いでいる。近々中央紙に発表する予定とか。

✪1月20日片町一十百(かずとも)にて新年会。大御所を中心にたいへんな盛り上がりをみせました。参加者は男女13名。

✪松井氏、雪が無いのを幸いと、能登のオオムラサキを調べている。ところが、何処のエノキもゴマダラばかり。

例会の記録

12月2日8時より、城南管工2Fにて開催。今回は1年の締めくくりとして、1988年の10大ニュースを決定した。ところが今年は低調だったせいか標本箱賞たる NO.1 には該当が無く、頭無し10大ニュースと成ってしまった。

参加者は田中、澤田、小幡、松井、近藤、中田、指田、田辺、野中、井村、竹谷、中西(2人)の13名。

目　次

野中　勝：ムモンアカシジミの採蛹 …… 1
松井正人：ギフチョウの初見記録とサクラの開花宣言 …… 3
編集部：アサギマダラ・マーキング一覧(1988) …… 4
野中　勝：やっぱり冬は採卵に限る …… 5
吉岡　泉：ギフチョウの早い記録 …… 7
中田泰介：蝶談会年間ベスト10決定秘話 …… 8
編集部：1988年収支報告 …… 9
編集部：会員の動き・しゃばの動き …… 10
編集部：例会の記録 …… 11

とぶ NO.75

1989年2月3日発行

〒920-01 金沢市大場町東871-15 松井方
百万石蝶談会
☎ 0762-58-2727
振替 金沢5-562

印刷 小西紙店印刷所